

目の検査

2006.05.02

函館近郊ではインフルエンザはすっかり治まりましたが、ウイルス性胃腸炎が猛威を振るっています。夜中に吐いてもこどもの意識がしっかりしていれば緊急性はあまりありません。あわてないでくださいね。

北斗市に拠点を移してから、2年半が経ちました。現在、北斗市から3歳健診の仕事をいただいております。読者の皆さん、3歳健診で一番急を要するものってなんだかご存知ですか？ことば、コミュニケーション、発音、身長、体重、目の見え方、耳の聞こえ方……。3歳健診ではいろんなことをしますが、親が気づかないで重大なことになっているのは、実は目の見え方なのです。目の検査というと、小学生以降の近視を調べるものと同じと多くの方は思っているでしょうが、3歳の目の健診は遠視や遠視に伴う弱視を調べるために行っているのです。遠視って遠くがよく見えると誤解されている方が多いです。こどもの遠視は遠くも近くもよく見えていません。こどもの目はしっかり見ることで育つものです。しっかりした像が目の網膜に焼きつかないと、その先の脳もしっかり見るという発達できません。しっかり見せるために、遠視性弱視のお子さんには、遠視用のメガネを寝る時間とお風呂の時間以外はずっとかけてねってというお願いと、アイパッチとっていい目を覆って弱い目で物を見るという訓練が必要になってきます。見つかるといういろいろと大変なのに、健診前までに見えづらさを強く感じている保護者の方はそれほど多くありません。近視のメガネはその人のQOLを高めるためにありますが、こどもの遠視のメガネは、こどもの命そのものといっても過言ではありません。それほど重要性のあることなのです。これから3歳の健診を迎えるお子さんには、行政から目の検査用紙が送られてくるはずで、片方がよく見えるのに、片方がうまく見えないというのが一番心配です。心配な結果がでたら、健診を待たなくても眼科にいった精密検査を受けるようにしてください。そして、メガネをかけているかわいらしい3歳児をみたら、「かっこいいメガネお似合いね！」って声かけてください。